

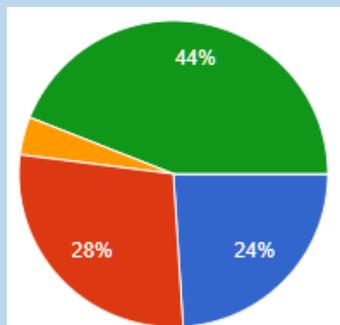
学びの改革パイオニア校 認知や発達の特性を活かした授業改善 公開授業 (参加者アンケートより)

令和6年6月21日(金)伊那市立東部中学校

□ 公開した授業

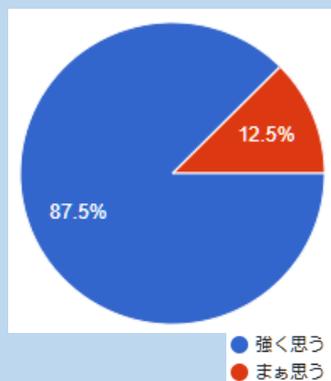
- ・アセスメントツールを使って3年生が各学級(7学級)で担任と学ぶ授業
- ・アセスメントツールを使って2年生が体育館で外部講師と担任とで学ぶ授業

□ 参加申込者内訳 (30名)

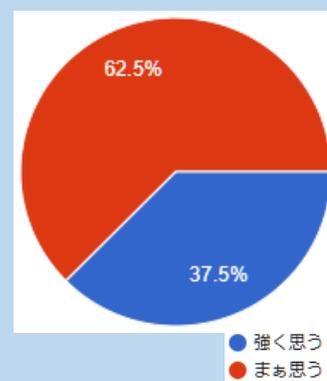


青：管理職 赤：教諭 黄：講師
緑：教育委員会関係者

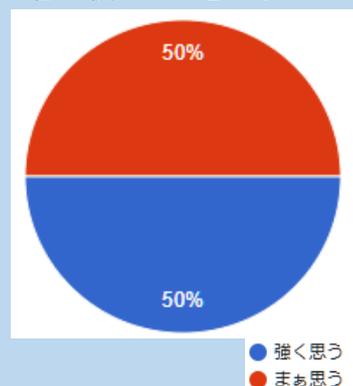
□ アセスメントはこれからの学びに必要なだと思いますか



□ アセスメントを全員から取るのは有効でしょうか



□ このアセスメントは授業改善に役立つと思いますか



□ 本校の研究に役立つアドバイスをお願いします

- ・今回は自分の強みを生かすことに焦点化されていた様に思います。生徒にとって、自分の良さの発見はプラスに感じる一方で、あまりピンとこない様な感じが今回の自分のアセスメントシートの記入時の様子でした。生徒にとって苦手なところの方が実はよくわかっている様な気がします。苦手なところを把握した上で得意なことを活かして苦手をカバーする方が生徒にとって分かりやすく、知りたい情報かもと感じました。
- ・変わっていく自分と変わらない自分との間で悩んでいく姿は、生徒のみならず、教員も同じなのだと感じました。どうしても教員は変われる、変わらないといけなく強く迫られる世の中ですが、うまく折衷案を探していく姿を教員が見せていくことも大切なかもしれないと感じました。

□ このアセスメントは授業改善に役立つと思いますか

- ・何より、学校全体でSPACE-Qを活用していこうという雰囲気を強く感じました。研究というと、とかく一部の先生方が中心になり、取り組むイメージが強くありますが、そのような雰囲気を感じることはありませんでした。また、アセスメントを子どもにフィードバックしていく過程が根本にあるため、子ども自身による子どもの活用の流れが据わっていることも印象的でした。この部分について、子どもの願いからスタート出来ればさらによいとも思いました。具体的な教科への活かし方が大変気になるとともに、楽しみでもありました。
- ・3年生の授業では、どの生徒も前向きに取り組んでいたのが印象的でした。みんな違うということがわかって、自己理解と同時に他者理解に繋がっていたのもいいなあと思いました。また、1年生の授業でもそれぞれが前向きに取り組む姿が印象的でした。自分のデータだけでなく、友だちのものをお互い見合うことで、データに基づいたいいとこ探し出来るのもいいなあと思いました。友だちの何となくいいと思っていたことが、やっぱりそうか!と分かる所や、データを読み取る力も付きそうだなと思いました。最後に発表されていた生徒さんが友だち同士で見せあっているときには友だちのデータを見て、「資料を作って、やり方を教えて(聞き取れず)～すれば完璧にやるロボットじゃん!」と言っていました。発表の場面では「僕の友だちは、決まったことをちゃんと真面目に取り組める人と言うことが分かりました」と言っていて、言葉の言い換えも素晴らしいなあと思いました。本校でも通級指導教室でのアセスメントはありますが、教室との連携を考える上で、教室で自分の強みが見えるといいなあと思っていた所に今回の授業を見せていただいたので、とても勉強になりました。交流会に参加出来なかったのでお聞きできませんでしたが、SPACEさんと研究を進めることになったきっかけや、全校で取り組むためにどのように進めたのか等も聞いてみたかったなあと思いました。